カチドキ®Ｚ１キロ粒剤

■種 類 名：プロピリスルフロン・フロルピラウキシフェンベンジル粒剤
■有効成分：プロピリスルフロン---------- 0.90%
　　フロルピラウキシフェンベンジル ---------- 0.50%

■登録番号：第24820号
■毒　　性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2023.12.20
■性　　状：褐色細粒
■有効年限：3年
■包　　装：1kg×12袋、10kg×1袋

【特長】

- プロピリスルフロンとフロルピラウキシフェンベンジルの特長ある２つの有効成分を含有し、ＡＬＳ抵抗性雑草を含む幅広い水田雑草に効果を示す。
- イボクサ、クサネム等の特殊雑草や、ミズアオイ等の難防除雑草にも高い効果を示す。
- 田植同時散布機での施用、無人航空機による散布など省力的な処理方法で使用できる。

【適用内容】（2024 年 11 月末日現在）

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ﾌﾟﾛﾋﾟﾘｽﾙﾌﾛﾝを含む農薬の総使用回数	ﾌﾛﾙﾋﾟﾗｳｷｼﾌｪﾝﾍﾞﾝｼﾞﾙを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草 アオミドロ･藻類による表層はく離	移植時	1kg/10a	１回	田植同時散布機で施用	２回以内	３回以内
		移植直後～ノビエ 3 葉期 但し、移植後 30 日まで			湛水散布 又は 無人航空機による散布		

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの３葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。
  ホタルイ、ウリカワは２葉期まで、ミズガヤツリは草丈７㎝ まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前、オモダカはヘラ葉期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈１０㎝までが本剤の散布適期である。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生の期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 苗の植え付けが均一となるよう、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 散布に当っては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し少なくとも３～４日間は通常の湛水状態(水深３～５㎝)を保ち、散布後７日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、入水は静かに行うこと。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
  - ◆ 散布は各散布機種の散布基準に従って実施すること。
  - ◆ 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - ◆ 粒剤散布装置については、事前に薬剤の物理性に合わせてメタリング開度を調整するとともに、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラ(スピンナ)の回転数を低速に調整すること。
  - ◆ 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、ほ場の端から 5m以上離れた位置からほ場内に散布すること。
  - ◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深２㎝／日以上）
  - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
  - ◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
  - ◆ 散布後に高温傾向が続くと予想される時
  - ◆ 稲の根が露出している水田
- 活着遅延が生じるような異常低温及び寡照条件下では、薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 著しい多雨条件では、除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
  無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
  散布後は水管理に注意すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。